

付属資料

伊那市地方創生総合戦略審議会条例

(平成27年伊那市条例第9号)

(設置)

第1条 まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)の理念に基づき、少子高齢化の進行に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、地域の住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある伊那市を維持していくための基本的な計画として、伊那市地方創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)を策定し、その総合的かつ計画的な推進、効果の検証等を行うため、伊那市地方創生総合戦略審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(任務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 市の人口の変化に係る影響及び将来推計に関する事項
- (2) 総合戦略における基本目標及び具体的施策に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

(組織)

第3条 審議会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 市議会議員
- (2) 地域を代表する者
- (3) 各種団体を代表する者
- (4) 識見を有する者
- (5) 公募による者
- (6) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置き、委員が互選する。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、総務部人口増推進室において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

伊那市地方創生総合戦略審議会委員名簿

区分	氏名	役職等
会 長	伊 藤 清	上 伊 那 森 林 組 合 専 務 理 事
副会長	唐 木 和 世	伊 那 商 工 会 議 所 副 会 頭
副会長	(前任者) 酒 井 光 一	八 十 二 銀 行 伊 那 支 店 長
	(後任者) 矢 島 充 博	
委 員	伊 藤 泰 雄	伊 那 市 議 会 議 長
委 員	赤 羽 仁	旧伊那市区域区長会美篤地区区長会長
委 員	守 屋 和 俊	高 遠 町 地 区 区 長 会 副 会 長
委 員	池 上 敏 明	長 谷 地 区 区 長 会 非 持 山 区 長
委 員	矢 島 洋 子	上 伊 那 農 業 協 同 組 合
委 員	池 上 裕 平	伊 那 青 年 会 議 所 副 理 事 長
委 員	高 嶋 厚	株 式 会 社 タ カ ノ 人 事 部 長
委 員	板 山 準 治	伊 那 バ ス 株 式 会 社 常 務 取 締 役
委 員	日 比 野 誠	連 合 長 野 上 伊 那 地 域 協 議 会 副 議 長
委 員	小 嶋 早 苗	伊 那 市 社 会 福 祉 協 議 会
委 員	松 田 泰 俊	伊 那 市 教 育 委 員 会 教 育 委 員 長
委 員	下 島 英 喜	中 部 P T A 連 合 会 会 長
委 員	小 澤 篤	伊 那 市 保 育 園 保 護 者 会 連 合 会 会 長
委 員	向 山 知 希	伊 那 市 観 光 協 会
委 員	林 靖 人	信 州 大 学 地 域 戦 略 セ ン タ ー 准 教 授
委 員	唐 澤 桂 子	伊 那 市 女 性 人 材 バ ン ク
委 員	二 瓶 裕 史	公 募 委 員

(役職等は、委員委嘱時のものです。)

27伊人第9号
平成27年4月30日

伊那市地方創生総合戦略審議会 様

伊那市長 白鳥 孝

伊那市地方創生総合戦略について（諮問）

伊那市地方創生総合戦略審議会条例第2条の規定により、伊那市地方創生総合戦略の策定について意見を求めます。

平成27年10月 日

伊那市長 白鳥 孝 様

伊那市地方創生総合戦略審議会
会長 伊藤 清

伊那市地方創生総合戦略について（答申）

平成27年4月30日付27伊人第9号をもって諮問のありました「伊那市総合戦略」について、別冊のとおり答申します。

伊那市地方創生総合戦略審議会 審議経過

1. 審議会

- 第1回 平成27年 4月30日 正副会長の選出
- 第2回 平成27年 5月29日 策定方針、人口ビジョン（素々案）、アンケート調査についての審議
- 第3回 平成27年 6月29日 地方創生政策スキームの審議
- 第4回 平成27年 7月31日 地方創生総合戦略（素々案）の審議
- 第5回 平成27年 8月28日 地方創生総合戦略（素々案）の審議
- 第6回 平成27年10月 7日 人口ビジョン（素案）及び総合戦略（素案）の審議

2. 計画の諮問、答申

諮問 平成27年 4月30日

答申 平成27年 10月 日

地方創生に係わる各種団体との懇談会 報告書

I 開催概要

1. 趣旨

伊那市地方創生総合戦略を策定するにあたり、次の5つの視点で広く関係者の意見を聴取し、戦略に反映させるため、産官学金労言の各種団体との懇談会（意見交換会）を実施するもの。

- 《5つの視点》
- ①雇用を創出するための産業振興
 - ②伊那市へ新たな人の流れをつくる
 - ③安心して産み育てる
 - ④女性の活躍
 - ⑤外部人材、I J Uターン者の受け入れ

2. 実施方法

地方創生の視点からいくつかテーマを設け、それぞれテーマに関係する各種団体から参加者を募り、5回に分けて懇談会（意見交換会）を実施。

3. 実施日程

第1回 平成27年8月5日（水）

「地方経済活性化策」、「社会で女性が活躍するために」

参加者 商工団体、金融団体、女性団体 計26名

第2回 平成27年8月6日（木）

「伊那市の魅力を交流人口の増加に反映させるためには」

参加者 観光協会会員、交通団体、報道機関 計15名

第3回 平成27年8月6日（木）

「子どもを2～3人産み育てるために必要なこと」

参加者 保育園保護者、幼稚園・小中学校PTA 計35名

第4回 平成27年8月10日（月）

「移住者を受け入れるために心がけること」、「移住者が心がけること」、
「これからの安心・安全な地域づくり」

参加者 区長会、消防団、移住者 計31名

第5回 平成27年8月12日（水）

「魅力ある農林業の今後の展開について」

参加者 農業団体、林業団体 計23名

全5回参加者 計130名

Ⅱ 主な意見（まとめ）

1. 第1回懇談会

◎実施概要

日時	平成27年8月5日（水） 17:00～18:30
会場	市役所5階 501・502会議室
参加依頼	・商工団体（伊那商工会議所、伊那商工会 等） ・金融団体（伊那市金融団） ・女性団体（女性人材バンク、男と女ネットワーク協議会 等）
参加者数	26人
テーマ	（1）地方経済活性化について （2）社会で女性が活躍するために

◎まとめ

（1）地方経済活性化について

- リニア開通を見据え、交通・観光等の面から、伊那市だけでなく広域的に取り組みを進めていく必要がある。
- 地域を巻き込みながら、伊那の魅力を発信していくことが重要。
- 新規起業者のフォローアップや既存企業留置政策で、若者が戻ってくる雇用の場づくりが必要。

（2）社会で女性が活躍するために

- 企業として、女性が復帰しやすく、正社員になれるような仕組みづくりが必要。また、男性も部分休暇等取りやすい制度や環境を整えるなど、男性の働き方の改善も必要ではないか。
- 行政の面から、子育て支援策をより充実させてほしい。利用できる子育て支援場所等は積極的に周知し、女性が活躍できる環境づくりをしてほしい。

◎主な意見

（1）地方経済活性化について

- 交通の便について
 - ・交通の不便さが流通のネックとなっている。
 - ・公共交通機関の利便性が人の往来を多くし、活性化につながる。
 - ・リニア開通を見据えた広域的な発信・取組が必要。
 - ・リニアと三遠南信自動車道の連携ができないか。

○伊那市の魅力発信

- ・地域ブランドの発信（有機農業、法人化などで農業をブランド化し都会で営業、田舎暮らしの民泊 等）
- ・伊那市の魅力をまずは、市民が知り、発信していくべき。
- ・東京だけでなく中京圏も組み合わせ、伊那市の長所をPRする。
- ・近隣市町村を巻き込み、広域的に「伊那谷」をアピールする。
- ・どこが主体となって企画・実施していくかが課題。

○企業誘致・留置政策

- ・企業数を増やす努力が必要
- ・新規起業者のフォローアップを手厚くするべき。
- ・後継問題は企業にとって重要。新企業の誘致も大切だが、既存企業留置政策も重要。
- ・若者が働きやすい職場づくりが重要。

(2) 社会で女性が活躍するために

○子育て支援策について

- ・働くためのバックアップが必須。企業・行政の働きかけがほしい。
- ・第3子以降への支援策はあるが、第1子、第2子にも支援があってもよいのではないか。
- ・産休など法整備は整っているが、子育て環境の整備はさらに必要ではないか。
- ・サポートセンター等子育て支援場所をもっと周知してほしい。

○職場環境の整備

- ・職場復帰する女性職員への理解のある職場づくりをする。
- ・育休復帰後、正社員になれる制度があるとよい。
- ・職場近くに子供を預ける場所がほしい。
- ・女性の管理職を増やす。
- ・企業説明会、子育て支援策をPRすると女性が応募しやすい。

○男性のサポート

- ・子育てしながら女性が働き、活躍するためには、男性の支援が必要だが、男性で育児休業を取得する人は少ない。男性の働き方の改善も必要ではないか。
- ・男性も家事をすること。

2. 第2回懇談会

◎実施概要

日時	平成27年8月6日(木) 13:30~15:20
会場	市役所5階 501・502会議室
参加依頼	・公共交通関連団体(伊那バス、JRバス) ・観光関係団体(観光協会、伊那市観光株式会社 等) ・報道機関(伊那記者クラブ)
参加者数	15人
テーマ	伊那市の魅力を交流人口の増加に反映させるためには

◎まとめ

【これからの伊那市のありたい姿】

(伊那市の強みを生かす)

- 自然、景観を生かした山岳田園都市
- 滞在観光の仕組みをつくる
- 駅伝のまち伊那市をつくる、マラソン、走る街で売る
- テーマを持たせた町並みづくり
- 農家との婚活など、都会からのUターン・Iターンにつながるイベントを開く

(伊那市の弱みを克服する)

- 商店街に道の駅をつくり、様々な情報集まる、情報の発信地とする
- まずは一度訪れてもらえるようにPRをしていくことが重要
- 伊那市の柱はこれだというものを創り上げていく

◎主な意見

○現状と課題

(強み)

- ・自然、景観、2つのアルプス
- ・自然災害が少ない
- ・田舎の雰囲気の中での適度な暮らしやすさ
- ・リニアを好機に活性化を目指す
- ・農業が盛んで、農産物が豊富

(弱み)

- ・住民が伊那市の良さに気付いていない
- ・交通の便が悪い
- ・車がないと生活できない

- ・目玉となる観光地がない、通過の観光地で宿泊してもらえない
- ・年間を通しての大きな観光資源がない
- ・知名度が低い、PRが下手、消極的、欲がない
- ・伊那市駅周辺がさびしい

○強化、必要なこと

(強み)

- ・電線の地中化でさらに景観を良くする
- ・夏の気候を利用した合宿の誘致
- ・公共交通機関で山に行けるようにする。
- ・高遠・長谷の資源を生かしていく
- ・企業誘致、移住定住を売り文句にする

(弱み)

- ・伊那市の魅力を市内外に発信し、知ってもらう
- ・観光の通年化を図る
- ・アクセスが悪くても訪れたい場所を作る
- ・木曾から伊那間のルートのアクセス方法の充実
- ・積極的なPR、売り込み、宣伝を行う
- ・観光案内所のような情報を発信するところをつくる
- ・伊那市駅前の活性化を図る

【まとめ（ありたい姿）】

(強み)

- ・自然、景観を生かした山岳田園都市
- ・滞在観光の仕組みをつくる
- ・駅伝のまち伊那市をつくる、マラソン、走る街で売る
- ・テーマを持たせた町並みづくり
- ・農家との婚活など、都会からのUターン・Iターンにつながるイベントを開く

(弱み)

- ・商店街に道の駅をつくり、様々な情報集まる、情報の発信地とする
- ・まずは一度訪れてもらえるようにPRをしていくことが重要
- ・伊那市の柱はこれだというものを創り上げていく

3. 第3回懇談会

○実施概要

日時	平成27年8月6日(木) 19:00~20:30
会場	市役所5階 501・502会議室
参加依頼	・ 保育園保護者連合会 ・ 幼稚園、小中学校PTA
参加者数	35人
テーマ	子どもを2~3人産み育てるために必要なこと

◎まとめ

- 子育てをするにあたっての経済的援助が大切。親が気持ち的にも、経済的にも余裕がないといい子育てができない。
- 地域全体を巻き込んで子育てができるような仕組みをつくっていく。
- 働きながらも、安心して出産・子育てができるような環境整備を。
- 子育て支援制度については、制度があるのに知らずに活用に至っていないものがある。積極的に広報していくべき。

◎主な意見

○経済面について

- ・ もうひとり子どもがほしいが、経済的に可能かどうか問題。
- ・ 大学進学のことを考えると、経済面が課題となる。
- ・ 児童手当、福祉医療等ありがたいが、まだまだ子どもにお金がかかる。
- ・ 保育料・プレミアム商品券など軽減、特別手当等は、2人目以降から対象となってくることが多いが、一人っ子には恩恵がないように感じてしまう。一人っ子でも対象となるような基準にしてほしい。
- ・ 経済的な支援が必要。(出産費用、おむつ・ミルク代補助 等)
- ・ 子どもの成長とともにお金がかかり、金銭面のことが気になる。
- ・ 子育て支援に関するお金は下げないでほしい。お金の支援は生活へ影響が大きい。
- ・ 経済面で安定するためにも、正規雇用・就職先の確保が重要。

○仕事面について

- ・ 子育て中の勤務時間短縮制度があればありがたい。
- ・ 子どもが病気になったとき仕事を休みにくい。休みを取りやすい環境があるとよい。
- ・ 産休がとりにくい雰囲気がある。
- ・ 産休後いったん仕事に復帰すると次の子どもの出産は厳しい。
- ・ 母親が出産後仕事をやめなければならない現状がまだまだある。
- ・ 子育てには父親の協力が必要だが、社会にその仕組みができていない。

- ・男性が育休をとって当たり前の社会に。

○子育て支援について

- ・病後児保育が利用しにくい。
- ・ファミリーサポートは利用したことがあるが、手続きが面倒であり、緊急時の利用は難しい。どこに預けられるのかわからないので不安。手続きの簡素化と制度の広報（HPに掲載する等）が必要。
- ・子育てガイドブックの内容を知らなかった。子育て支援情報の早期提供が必要。
- ・親同士で不安や悩みを話せる場がほしい。
- ・手助けをしてくれる人がなく、子育てが大変。近所に顔見知りの預かり場があるとうれしい。公民館など地域の集会所を活用できないか。
- ・地域の高齢者の方々に呼びかけ、子どもたちの見守り手助けをしてもらえるボランティア協力隊の募集を行い、地域での応援団の方々の居場所がわかるような「子育て応援団マップ」の作成をしてほしい。
- ・学童保育の充実。（長期休業中も利用したい）
- ・仕事をどうしても休めない時に病児を預かってくれる場所があるとよい。
- ・産んでから数年の支援より、先々の不安に対する支援がほしい。
（県外に進学しても伊那市に戻れば奨学金の償還を市が補助する等）
- ・高校までの子育て環境は良いが、大学・就職など伊那市での将来が描けない。

○子育てに対するイメージ

- ・子育ては大変なものとしか伝わっていない
- ・子育ては、大変なことばかりではない。「子育てっていいな」と思えるような子育ての先輩たちからのメッセージの発信が必要。



4. 第4回懇談会

◎実施概要

日時	平成27年8月10日(月) 19:00~20:30
会場	市役所1階 多目的ホール
参加依頼	・移住者 ・区長会 ・消防団
参加者数	31人
テーマ	(1) 移住を受け入れるために心がけること (2) 移住者が心がけること (3) これからの安心・安全な地域づくり

◎まとめ

(1) 移住を受け入れるために心がけること

○受け入れ側としても、従来の風習等に固執するのではなく、必要に応じて区費減額等の特別措置をとるなど、柔軟な対応が求められる。

○移住者と受け入れ側とのパイプ役となる人材を配置し、移住者と地域の人がつながるための仕組みづくりをしていく必要がある。

(2) 移住者が心がけること

○地域住民と積極的に関わり合いを持ちながら、その地域の慣習や伝統を学び、地域の一員として生活することで、お互いにより楽しく、安心して暮らせる。

(3) これからの安心・安全な地域づくり

○移住者と受け入れ側が積極的にかかわりを持ち、一緒に地域活動に参加していくことで、互いを知ることができ、安心・安全の地域づくりにもつながる。

◎主な意見

(1) 移住を受け入れるために心がけること

- ・移住者にとって頼れる「世話人」を各地域で設けるべき。
- ・地域の人から移住者に対して、地元のルールを説明する場があるとよい。
- ・移住者と地域の人がつながるための「仕組み」づくりが必要。
- ・従来どおりの風習等についても固執するのではなく、必要に応じて考え方を変えないといけない。
- ・まずは地域に馴染むこと、生活に慣れることが大切。保育園、小学校に子どもが通う若い世代(核家族)を支援するため、始めから100%は望まず、区費減額や行事への参加要請を減らすなど特別措置(試運転)が必要。
- ・特別措置に対する各区内での共通認識の構築よりトラブルを回避する。
- ・誰が来るのか何もわからない、あらかじめ情報がほしい。(お互いに困るのではないか)

- ・入区費が高く、自治会への加入に支障がある。事前の周知も必要。

(2) 移住者が心がけること

- ・身勝手な行動は地域とのトラブルの火種になり兼ねないが、移住者が地域住民に遠慮し過ぎることで、地域との交流の機会が失われるため、頼れる地域住民（世話人）を見つけ、自分の考えを伝えていきながら、その地域の慣習や伝統を学ぶべき。
- ・「郷に入りては郷に従え」という諺にとらわれ過ぎない。
- ・田舎暮らしに対する理想と現実のギャップを受け入れること。
- ・地域に受け入れてもらえるのか、よそ者をどう受け止めているのか。どういう人間なら安心してもらえるのか、どういう人間にきてほしいのかといった心配がある。
- ・都会から移住してきた人は、それまで地域とのかかわりが希薄であったため、移住してきても積極的に地域コミュニティに入ろうとしない人が多い。
- ・地元になじもう、PTA など役職を引き受けることで、顔を覚えられ、やがて頼られる側になると「ゲスト」ではなくなる。
- ・地域と積極的にかかわりを持つことで、お互いに、より安心して、楽しく過ごすことができる。

(3) これからの安心・安全な地域づくり

- ・安心安全な地域づくりのために、まずは地域住民が消防団員にも限りがあることを認識すること。そして、移住者にとって負担にならない範囲で自主防災組織をコンパクトに形成し、有事の際にスムーズに行動がとれるよう定期的に訓練を行うべき。
- ・ニュータウンなどでは「たまたま暮らしている」というだけで、町を守ろう、大事にしようという意識ができない。したがって、学区は同じでも消防団に入ろうという人はいない。
- ・地域のコミュニティ活動に参加することで、双方が顔を覚えられる。顔を知ることで、ひいては安心・安全の地域づくりにつながっていく。



5. 第5回懇談会

◎実施概要

日時	平成27年8月12日(水) 19:00~20:30
会場	市役所1階 多目的ホール
参加依頼	・農業団体(伊那市農業振興センター運営小委員会委員等) ・林業団体(林業関係企業、上伊那森林組合、信州大学農学部等)
参加者数	23人
テーマ	「魅力ある農林業の今後の展開」について以下3つの視点から意見交換 (1) 雇用を創出するための農林業振興 (2) 伊那市へ新たな人の流れをつくる (3) 女性の活躍

◎まとめ

(1) 雇用を創出するための農林業振興

○農業に対するマイナスイメージを払拭し、おいしい伊那市の農産物を広く発信していく。

また、6次産業化や農産物のブランド化に向けては、地域一丸となつての対応が必要。

○林業に携わる人材の育成に向けた仕組みづくりが重要。また、伊那市独自の製品を開発し、付加価値を付け、地産地消へつなげていく取組が必要。

(2) 伊那市へ新たな人の流れをつくる

○I J Uターン者を呼び込むために、地域の魅力ある人・物を積極的に発信するなど、行政の施策的な誘導が重要になる。

(3) 女性の活躍

○男性と女性が適材適所で役割分担するなど、女性の視点を生かした活躍の場をつくる。

○女性は仕事、家事、子育てと負担が大きい。夫や家族の協力が不可欠である。また、子育てだけでなく、子どもができるまで・産むまでのサポートを手厚くしてほしい。

◎主な意見

(1) 雇用を創出するための農林業振興

○農業の観点から

- ・農業の「大変」「儲からない」というマイナスのイメージを払拭していくことが大事。
- ・伊那市の農作物のおいしさを農業者自身に気付かせることが大切。
- ・6次産業化のためには、農業者だけでなく、地域の企業と連携していくことが必要。
- ・おいしい農作物だけでは、特色がないのと変わらない。そこに物語がついていくと特産になる。6次産業化、ブランドを立ち上げるにもなにか物語がほしい。
- ・農地をもっと簡単に購入できる制度にすべき。
- ・伊那市の主力農産物は米。農家民泊等で訪れる海外の子どもたちを通して伊那の米を海外に向けて発信していけないか。

○林業の観点から

- ・森林整備（伐採作業等）については、人材難。新規雇用への支援策を検討いただきたい。
- ・一般人でも林業に興味を持っている人たち（若く経験の浅い人等）を育成する仕組みづくりが必要。
- ・大工等の職人が減っている。南信工科短大等の教育機関で職人の育成ができるよう働きかけをしていく必要がある。
- ・木材の単発活用だけでなく、他産業との繋がり の検討が必要。
- ・林と農をセットで対応することが雇用創出のカギとなる。
- ・伊那市独自の製品開発や、木材製品の販売ルートの確立をする。
- ・地産地消が重要で、製品等に付加価値を付ける取組みが必要。

(2) 伊那市へ新たな人の流れをつくる

○農業の観点から

- ・農業であっても、休日をきちんと取って、収支も計算できるような一般企業の体制に近づける努力が必要。
- ・新規就農者は、地域の人に声をかけてもらいたいもの。移住してきた人と地域がつながれる仕組みづくりが必要。
- ・出て行った若者に戻ってきてもらえるように、魅力のある地方の情報を発信するなど、行政の施策的な誘導が必要。

○林業の観点から

- ・Iターンしてくる人は、柔軟な考え方の人が多い。I J Uターンの人が更なるI J Uターンの人を呼び込み、人材育成にもつながる。
- ・雇用のミスマッチ解消へ向けた取組や、小さくても光る取り組みをしている人の発信を行政にお願いしたい。

(3) 女性の活躍

○農業の観点から

- ・普段の農業に加え、食事、洗濯、掃除などの家事は、女性の仕事になってしまう。
- ・四六時中女性は働いているイメージ。夫と家族の協力が必要。
- ・農業経営について、物事を一緒に考えてくれるパートナーとして女性に活躍の場を。
- ・例えば、営業担当は妻で作物担当は夫など、役割分担して協力していくとよい。
- ・女性に発言権がない環境はよくない。自分の考えを言える雰囲気をつくる必要がある。

○林業の観点から

- ・女性の視点を生かしていくことが大切。
- ・薪製造には若い女性もいるが、林業現場ではほとんどみられない。
- ・長野県に「林業女子会信濃」があり、林業のイベント活動や情報発信がメインで行っている。適材適所で活用が必要。
- ・伊那市は、子育てのサポートは充実しているが、子どもができるまでのサポート（不妊治療）や子どもができ産むまでのサポート体制が少ない。